



植樹後、バスボランティア100回記念植樹の記念撮影に参加者と。

## バスボランティア 100回記念 「植樹式」を実施 いわて生協

いわて生協では、「被災地でボランティアをしたいが、個人ではなかなか参加できない」との声に応え、2011年6月より内陸の市町村から沿岸部の被災地域に向けてバスボランティアを開催してきました。12年12月末までに計92回開催し、生協組合員や職員、地域の方々など、延べ3,552人が参加しています(1月～3月期は休止)。



植樹されたのは、花や実、紅葉などで四季の移ろいを感じさせてくれる、マンサク、クロモジ、ムシカリ、ウリハダカエデの4種10本。

13年も4月から再開し、7月13日で100回目を迎えました。この日は、いわて生協の60人に加え、遠く近畿圏から合同でバスボランティアを開催してきた、おおさかパルコップ、大阪よどがわ市民生協、ならこップの組合員など30人、それにこップいしかわの組合員など10人が参加して、陸前高田市米崎町・再生の里ヤルキタウンで記念植樹式が行なわれました。いわて生協・組織本部、復興支援担当の小野寺真さんは、「今回植樹された木の成長を、今後も継続的にこの地を訪れるボランティアの皆さんに見守っていただきたい。そしてこの木の成長自体が陸前高田市の復興のシンボルになればと思います」と話してくれました。

### 被災地からのメッセージ

## 全国の皆さまへ

コープふくしま 地域理事 齋藤恵理子

理事になって1年。全国の皆さまからの温かいご支援に日々励まされながら活動しております。

震災から2年がたった今も、まだまだ先が見えない状態が続いている福島です。

家があっても自宅に帰れない人、自らの判断で避難している人、避難したくても避難できない人、避難の必要がないと考える人……さまざまな立場の人たちが複雑な思いを抱えながら生活しています。

それまで全く関心を持っていなかった放射能が突然身近なものになり、最初はただ「怖い」の一言でしたが、学習会を重ねることで、迷いながらもだんだんと放射能を理性的に怖がるできるようになりました。検査体制や生



産者の方の取り組みを知ること、最初は避けていた福島県産の食べ物も今は積極的に消費しています。

しかし一方で、一度植え付けられた恐怖心を払拭できずに、今も見えない不安におびえている方がたくさんいらっしゃいます。それぞれの立場や考え方の違いを認め、互いを尊重する気持ちが今の福島では特に大切なことに思えます。

2年以上も仮設住宅での暮らしを余儀なくされている現実。言葉にできない胸の内は計り知れません。集会所でのふれあいサロンでは、少しの非日常を提供させていただくことで、入居者の方の心に晴れ間が広がるお手伝いできればと思っております。

「花も実もある福の島」。全国の皆さまに足を運んでいただき、福島の「今」を見ていただきたいです。福島を感じていただくことが福島の復興につながります。

皆さん、ぜひ福島に来てくなんしょ!

メッセージ全文は、日本生協連「復興支援ポータルサイト」内、「つながろうCO-OPアクション情報」バナーをクリックし、ご覧いただけます。「日本生協連 復興支援ポータルサイト」でインターネット検索を。